



会 期：2023年9月15日金—9月16日土

会 場：ステーションコンファレンス東京

会 長：渡邊 健一 (関東労災病院 整形外科・脊椎外科 部長)

副会長：尾原 裕康 (順天堂大学 脊椎脊髄センター センター長)

表紙絵の説明

表紙の絵は、皆さんよくご存じの浮世絵、葛飾北斎の名所浮世絵揃物『富嶽三十六景』の「神奈川沖浪裏」（かながわおきなみうら）です。神奈川沖とは私が生活している神奈川県横浜市神奈川区の沖合ですが、神奈川の対岸にあたる木更津の沖合付近から富士を望んだという説があります。

また、この絵は「グレートウェーブ」と呼ばれ、絵画ではゴッホの「星月夜」の渦巻き、絵画以外ではカミーユ・クローデルの彫刻、ドビュッシーの交響詩など、西洋芸術にその影響を与えたといわれています。また2024年から導入される新千円札の裏面デザインに採用されることになっています。

この絵の一番の魅力はやはりその劇的な構図で、凶暴なまでに高く激しく渦巻く波濤と、波に揉まれる3艘の舟、それらを目の前にしつつ、うねる波間から遥か彼方にある富士の山を垣間見るといえるものです。

この絵を見るたびに荒れ狂った海、高い波は、脊椎の重篤な疾患、脊椎手術の困難さ、脊椎手術合併症などであり、大波に揉まれる船が私たち脊椎外科医であると私なりに勝手に置き換えて解釈し、困難な問題に立ち向かったときに、神聖であり、絶対的であり、また美の象徴である富士山がそんな私を見守ってくれているとこの絵を見て自分を励ましてきました。

そんな私の思いを込めてこの絵を抄録集の表紙とさせていただきます。

2023年9月

第30周年記念 日本脊椎・脊髄神経手術手技学会学術集会

会長 渡邊 健一

(関東労災病院 整形外科・脊椎外科 部長)